

平成27年度 関西大学 研修員

研究支援グループ

学部	人数枠	資格	氏名	期間	主たる研究先	研究内容の概要	備考
法	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	教授	飯島 暢	H27.4.1～ H27.9.20	1関西大学個人研究室 2関西大学総合図書館 3ドイツ・ボン大学	書き溜めた論文を精査し、研究書にまとめる。また、ドイツのボン大学に赴き資料収集及び聞き取り調査を行う。	
		教授	市原 靖久	H27.9.21～ H28.3.31	1関西大学個人研究室 2関西大学図書館 3大阪市立大学学術情報総合センター 4同志社大学図書館 5上智大学図書館 6国立国会図書館	iustitiaという語の概念史に関連する研究を調査し、これに関する史料を特定し、整理する。また、その史料の背景を調査することによって史料中の用例を分析し文意を確定していく。その上で、iustitiaという語の変容について仮説的な見通しを示す。	
文	春学期2名 秋学期1名 または 春学期1名 秋学期2名 の3名以内	教授	増田 周子	H27.4.1～ H27.9.20	1火野葦平資料館 2日本近代文学館 3神奈川近代文学館 4国立国会図書館 5大阪府立図書館 6北九州市立図書館	火野葦平と大阪文学の研究を行う。日中戦争、アジア・太平洋戦争時代の作品を比較検証し、戦争の記録と表象の問題を追及する。大阪文学研究においては、宇野浩二、織田作之助等の文学活動とその周辺を探り、大阪文壇研究、大阪の雑誌研究などを、作家の自筆資料をもとに研究する。	
		教授	新谷 英治	H27.9.21～ H28.3.31	1自宅 2関西大学図書館 3個人研究室 4京都大学図書館 5スレイマニエ図書館(トルコ) 6イスタンブール大学(トルコ)	国内外における関係文献の収集・整理、文献上の情報の現地(外国)における調査・確認、内外の研究者との意見交換を行う。国内の図書館・資料館において文献探索・分析を行い、得られた情報を西アジアなどの諸国において調査確認し、その知見を研究者との議論を通じて深化させる。得られた成果は既存の成果と統合し整理・総合を図る。	
		准教授	広瀬 義徳	H27.9.21～ H28.3.31	1自宅 2関西大学個人研究室 3関西大学図書館 4国立国会図書館	1950年代における日本の教育法制・行政史に関する資料を国立国会図書館及び都道府県教育委員会で収集・分析し論文にまとめる。外国籍教員の任用に関する法制・行政と実態に関する調査を都道府県教育委員会や教職員団体などに対して実施し論文にまとめる。以上の成果を学会発表や論文として公表し、著書としてまとめる。	
経	春学期1名 秋学期1名 の2名以内	教授	竹下 公視	H27.4.1～ H27.9.20	1関西大学経済学部 2地域総合生活デザイン研究所	これまでの研究を社会経済システム論の視点から捉え直す研究を行うが、並行して、学会・研究会に参加・発表する。また、地域総合生活デザイン研究所などの研究所を訪ねて情報収集や研究動向の調査を行う。研究の成果を1冊の著書として刊行できるように、準備を進める。	
		教授	本西 泰三	H27.9.21～ H28.3.31	1関西大学経済学部	家計へのアンケート調査の結果を用いて、家計のリスク回避度決定要因を分析する研究、不妊治療に対する補助金が、人々の受診行動に与えた影響の2つの研究を進めるために、計量分析を進める。不妊治療に関する最新のデータを入手し、既存のデータとともに整理・解析する。	
商	春学期1名 秋学期1名 の2名以内		被選考者なし				
社	春学期1名 秋学期1名 の2名以内		被選考者なし				
政策	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内	教授	橋本 行史	H27.9.21～ H28.3.31	1関西大学 2兵庫県立大学 3事業構想大学院大学 4明治大学	地方の過疎衰退は加速して構造化が進み、地域活性化が喫緊の研究課題となっている。地域の事情は千差万別で時代とともに変化しているため、活性化の態様は多様であって普遍化されていない。そのため学術的な研究も産業累積論などの一部を除けば個別地域の事例研究に留まっている。本研究計画にあっては、上記の視点から新規・追加の事例研究を行うとともに、これまでの事例研究を再整理して、地域活性化のモデル化を図り、出版にいたる原稿作成を行う。	

※ 規程 第3条第1項による在職年数(平成27年4月1日現在)に抵触するものではありません。

平成27年度 関西大学 研修員

研究支援グループ

学部	人数枠	資格	氏名	期間	主たる研究先	研究内容の概要	備考
外国	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内	教授	八島 智子	H27.4.1～ H27.9.20	1関西大学 2岡山大学 3東京大学 4立命館大学 5名古屋市立大学	研究データの収集、面接調査、観察調査などの長期にわたるデータ収集を行う。研究方法に関する研鑽を積みながら、データの分析を行う。また、研究協力者のいる岡山大学や東京大学、立命館大学においても研修を行う。同時にこれまで蓄積した論文の出版に向けた準備と新しいデータによる論文を執筆する。	
人間	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内		被選考者なし				
総情	春学期1名 秋学期1名 の2名以内		被選考者なし				
社安	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内		被選考者なし				
シス理	春学期1名 秋学期1名 の2名以内		被選考者なし				
環都	春学期1名 秋学期1名 の2名以内		被選考者なし				
化生	春学期1名 秋学期1名 の2名以内		被選考者なし				
法務	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内	准教授	中島 洋樹	H27.4.1～ H27.9.20	1関西大学 2自宅 3大阪大学 4京都大学 5立命館大学 6国立国会図書館	先行研究を再検討のうえ整理し、とりわけ英米法における証拠法上の扱いについて調査・分析を行うことにより比較法の見地から考察し、研究成果を公表論文として執筆する。また、捜査・刑事司法の国際共助による国外における証拠収集活動において「証拠が収集された国」と「証拠を使用する国」の間にある法制度と運用に関する相違を調整する原理について理論的分析を行う。	
会計	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内		被選考者なし				
心理	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内		被選考者なし				
教育	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内		被選考者なし				
国際	春学期1名または 秋学期1名 の1名以内		被選考者なし				

※ 規程 第3条第1項による在職年数(平成27年4月1日現在)に抵触するものではありません。